

2019 年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

実務者のための栄養ケアプロセス研修会

■主任研究者 塚原丘美

■共同研究者 立花詠子、畠山桂吾

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】 病院栄養士として、患者様への栄養ケアには広い視野をもつ必要がある。そこで、患者の栄養管理計画を作り、どのようなアウトカムを期待して PDCA を回していくのかを深く検討するため、合宿形式で症例検討を行った。この経験を通して実務者としてのスキルアップを図ることを目的とした。 また様々な立場の管理栄養士と議論する中で、同職種間でのネットワーク構築に繋がることにも期待する

【方法】

対象：病院栄養士として実務を行っている者 21 名

期間：2020 年 2 月 1 日～2 日 会場：サンプラザ・シーズンズ 葵の間

内容：

1 日目 13：15～15：45 「高齢者疾患の症例検討」

16：00～19：00 「嚥下障害と連携」

19：00～20：00 夕食・交流会

2 日目 8：30～11：30 「高齢者の栄養管理」

11：30～12：30 反省会・アンケート

【結果・考察】

最後に行ったアンケートより、研修前後を比較すると理解度の深まった参加者がほとんどであった。「ガイドライン、食事摂取基準など科学的根拠に基づいた栄養管理の重要性を学んだ」「管理栄養士の意義について悩んでいたが、自分の知識不足を痛感した」「自分の中でこの 1 年あまり変化はなかったと思っていたが、昨年と比べ設問にも少し深く考えることができたように感じた」「苦手意識を持っているといつまでも成長できないから学ぶ姿勢が必要と思った」など、昨年の参加から成長を感じたり、今後の目標を見つけたという意見が多かった。また、同じ経験年数同士の組み合わせであっても、他のグループの意見を聞く機会を取り入れる方法をとったことで、多くの意見を聞くことができ満足度が上がったと考えられる。この研修会の成果として「管理栄養士として前向きに進みたいと思った。日頃の業務に”考える事”をプラスしていきたい。」「理解は深まったが、経験（アウトプット）が必要」という意見もあり、今後の活躍が期待できた。

昨年引き続き合宿形式で研修会を行ったが、「意識の高い先生方や先輩・同期・後輩に刺激を受けた」「学生の時よりも、社会人になってからの方が、視点が変わり、より現実的に考えることができ、こういう場は本当に貴重なのだと思った」「この場に来られないのは、惜しいことだと思った」など、満足度が高く今後も同様の研修会を望む声が多かった。